

若き世捨て人？それとも・・・

10月、中間試験後。でもね、どう対応しようか、考えてました、中学3年生男子のこと。中学2年生の2,3学期時の出席は、30日に満たない。しかしながら、私に対応してから数ヶ月余り後の中学3年生の1学期は、ある医師も驚く信じられない程の回復(?)で、でも、本人にとってみると、ただ「格好悪いから」との理由で、ほぼ皆出席。元々学力のある生徒で、1学期中間試験は軒並み40点台。ところが、期末試験前に体調を崩し、休みがちに。それ故に、期末試験も一部の科目の試験が受けられなくなり、1学期の成績は燦々たるもの。そのショックで夏休みは極度に落ち込み、2学期も平均すれば、週休2日ならぬ、”週出席2日”。遠方のためなかなか会えないので、いよいよ彼に電話を入れた。「う～ん、もう、どうでもいいや、自分は」。「何もしたくないし、何も考えたくない。」と彼は言う。「そうかあ、そうなの。別にいいじゃん。そうだったら、何にもしなくても、何にも考えなくたっていいね。」「ただね。今の君のそうした選択は、勿論のこと、自分が考えたこと、自分がしていることであって、だれからも指図されてのことではない、紛れもなく君の選択なんだよね。そうした決断ができるようになったことは、君にとっては大きな成長なんだよね。」「えっ！大きな・成・長?」「そうじゃない、この時代に世捨て人を選択するなんて、すごい度胸だよ。」「ちょっと待って！俺は、仙人なんかにはならないよ。それじゃあ、生活できないよ。」「えっ！『なにもしたくないし、何も考えたくない』じゃあなかった?」「ちがうよ。ちょっとここんところ、テストの点数が取れず、そう思ってたんだ。」「だって、週出席2日だろ。いくら学力のある君でも取れんでしょう。ましてや、休んでも家で勉強しないんだから。1学期の中間試験の時を思い出しなよ。2年の2,3学期殆ど学校に行かなかったけど、全教科40点台を取ったんだよ。」「それでも世捨て人になる？大したもんだけど、それこそ格好悪くない？その歳で仙人だよ。」「いや、俺は大学に行く！」

その言葉通り、彼は近くの公立高校に進学し、トップクラスの成績を修め、推薦で大学に進学した。